

塚本優が聞いた「お寺だからできること」

体だけでなく「心」のリハビリもできる



吉田 敬一 部長

施設名	お寺の介護 はいにこぼん
事業主体	泰心山西栄寺(浄土真宗系単立寺院)
法人住所	大阪府大阪市西淀川区御船島1丁目6-17
TEL	06-6473-9444
事業内容	障害福祉サービス、居宅介護支援、デイサービス、サービス付き高齢者住宅

寺院存続のため、特徴あるお寺づくりの一環として、宗教法人主体で介護事業を行う。

塚本優と考える

お寺のポテンシャル

福祉業界や葬祭業界を長年にわたって取材する終活・葬送ジャーナリストの塚本優氏が、お寺の可能性に期待する業界の先進的な取り組みを紹介し、原則毎月第1火曜に掲載します。

介護福祉事業が順調

「はいにこぼん」西栄寺



④お寺の介護「はいにこぼん」の全貌 ⑤利用者の外出に同行するお坊さんヘルパー



西栄寺が介護福祉事業をスタートした狙いと背景について、介護福祉事業部の吉田敬一部長は次のように説明する。「お寺を巡る環境が厳しくなり、西栄寺でも檀信徒離れが徐々に起きている。また、単立で宗派の後ろ盾

お寺らしい介護目指す

浄土真宗系の単立寺院でありながら七つの寺院と三つの布教所を構える泰心山西栄寺(大阪市西淀川区)は、「お寺の介護はいにこぼん」の事業名で2014(平成26)年7月に訪問介護事業所を開設し、介護福祉事業をスタートした。以降3年間で、障害福祉サービス、居宅介護支援、デイサービス、サービス付き高齢者住宅(サ高住)を矢張り早に開始した。これらの介護福祉事業を、社会福祉法人などではなく宗教法人として行っているのが特徴で、事業収支は月数百万円の黒字を出すまでになっている。

「お寺が介護福祉事業を行なう場合は、社会福祉法人や株式会社などの別法人を設立するケースが多いが、西栄寺は宗教法人の事業として

その意図について、吉田部長は「最初から一貫して、お寺が主体となって介護を行いたいという思いがあった。宗教法人自身が介護指定業者の認可を取得することで、お寺が主体のお寺らしい介護の実現を目指した」と話す。



お盆には施設で法要が営まれる

地域の人々に喜びを

訪問介護事業所は当初、板に掲げたが、現場では男性よりも女性のヘルパーが

「ほしい」などと頼まれるのが日常茶飯事だ。ならばいつか、ヘルパーとして訪問介護に携われば、介護事業として成り立つのではな

「宗教法人として介護事業を行っているところは、あまりありません。お寺では檀家離れや檀家の高齢化が進んでおり、お寺が存続していくためには、新しいことに取り組みする必要があります」

存在価値が高まる 吉田部長に聞く



「また、成果を出すことにより、行政もお寺を社会的資源と見てくれるようになってきました。多くのお寺が介護事業を行えば、お寺の存在価値は今一度、高まってくると思います」

塚本優(つかもとまさる) 終活・葬送ジャーナリスト。早稲田大学法学部卒業。時事通信社などを経て2007

より実践的な介護を行うには、必要なサービスを適切に利用するケアプランの作成が必要となる。15年11月には居宅介護支援事業を開始し、ケアマネジャーを配置した。事業が順調に推移したため、続いて訪問介護と組み合わせ可能なデイサービスも始めることにした。「どうせならしっかりとした建

活躍する場が多かった。西栄寺の僧侶は男性が大半。そこで一般の女性ヘルパーを雇用した。

別化になるといいます」

4面に続く

前近代の能、映像に 非公開の常行堂で上映



天台宗書寫山圓教寺

常行堂を舞台に喜多流能楽師・大島衣恵氏が演じる杉本氏の映像作品

天台宗別格本山の書寫山圓教寺(大樹玄承住職、兵庫県姫路市)で、通常非公開の常行堂(重要文化財)を特別公開して現代美術作家・杉本司氏の映像作品を上映する展覧会「能クライマックス―翁神男女狂鬼」が開かれている。12月4日まで。

異なる前近代的な世界観を表現している。常行堂の内部では、ほかに阿彌陀如来坐像(重要文化財)の周囲に杉本氏の作品「光孝皇子五輪塔」を展示している。杉本氏は「昔から変なものを感じ取ってほしい」と、大樹住職は「世の中が大きく変わってゆく時代でも、変わらないものがある。仏教の教えもその一つであり、人々の心に残り続ける」と話している。

「弘法さん」に迫る

宝物館で秋期特別公開

総本山教王護国寺

真言宗総本山教王護国寺(東寺)の東寺宝物館で、秋期特別公開「鎌倉時代の東寺―弘法大師信仰の成立―」が行われている。「弘法さん」の名前で親しまれる毎月21日の「御影供」の歴史に迫りながら、現在の東寺の姿を形作ったターニングポイントを資料や画像を通じて解説する。

12月3日(天福25年)に弘法大師坐像が初めて建立されたこと、御影供や生身供が始まった経緯や、創建400年(ころ)に後白河法皇や源頼朝らの援助で堂宇や仏像が修理された歴史を紹介する。

特に目を引くのは、諸仏の姿を梵字で表現した「両界種子曼荼羅図」。御影堂内陣の東西に掛けられている鎌倉時代の曼荼羅で、往時の御影堂内を彷彿とさせる。

12月3日に再建された2代目の五重塔内部を忠実に記録した国宝「東宝記」も展示。5代目になる現在の五重塔が、かつての姿を忠実に再現していることが分かる。

拝観料大人500円、中学生以下300円。前期10月21日まで、後期10月22日〜11月25日まで、期間中に一部展示替えがある。公開文化講座(10月16日・11月13日午後1時半〜)や鎌倉時代の講義を巡る見学会(11月13日午前10時〜)も行われる。問い合わせは東寺宝物館(☎075-691-3333)。



五重塔の内部を説明する「東宝記」(下)と御影堂に掲げられた「両界種子曼荼羅図」

塚本優と考える お寺のポテンシャル



①訪問介護の看板
②お坊さんヘルパーに見守られる利用者



僧侶が日常的に傾聴

3面から続く

西栄寺介護福祉事業部の吉田敬一郎(長)によれば、「お寺が主体のお寺らしい介入を打ち出している。理学療法が最も表れているのは、デイサービスだ。」

また、僧侶が日常的に利用者の隣に座って、しっかりと話を聞くようにしている。

複合展開で黒字実現

たことこの3点を挙げる。訪問介護とデイサービス、サ高住を複合展開することで、月数百万円の黒字も実現。入居者からの家賃収入だけでなく、さまざまな介護サービスを利用してもらえば、介護保険による介護報酬が得られる。

今後の目標として、吉田部長は「西淀川区の介護事業はある程度のところまで成長できた。今後は、各布教所に介護事業所を併設したい」と話している。

11次回は11月1日掲載



西栄寺の山門